

【日中学術討論会】
中国・ポスト改革開放30年を考える

日時 2009年10月19日(月) 10時～18時
場所 早稲田大学3号館2階第1会議室
主催 人間文化研究機構 現代中国地域研究 拠点連携プログラム
共催 早稲田大学G-COE GLOPE II
「制度構築の政治経済学」
後援 社団法人アジア調査会
言語 日中同時通訳
※参加希望の方は下記アドレスに申込みをお願いいたします

全体司会 毛里和子 早稲田大学政治経済学術院
同現代中国研究所所長

10時00分～12時20分

開会の挨拶

平野健一郎 人間文化研究機構地域研究推進センター長

第一セッション 現代中国社会の分析

一階層化の現段階をどう評価するか? —

陸学芸 中国社会科学院社会学研究所
園田茂人 東京大学東洋文化研究所

討論

12時20分～13時30分

昼食

13時30分～15時30分

第二セッション 改革開放30年の評価と今後の課題

関志雄 野村資本市場研究所
中兼和津次 青山学院大学国際政治経済学部
天児慧 早稲田大学アジア太平洋研究科

討論

15時50分～17時50分

第三セッション グローバリゼーションと「中国モデル」

俞可平 中共中央編訳局
高原明生 東京大学法学部

討論

18時 閉会

申込み、問合せ先 : wiccs@china-waseda.jp

ホームページ: www.china-waseda.jp/

「中国・ポスト改革開放30年を考える:日中学術討論会」
招聘者の紹介

陸学芸 (Lu Xueyi)

中国社会科学院荣誉学部委員、社会学研究所元所長、研究員。中国社会科学院學術委員会委員、中国社会学会名誉会長。階層がないとされる中国において社会階層を提起、大きな議論を呼び、以後中国国内で社会階層分析のブームが起きた。

専門領域は、農村社会学、農村社会問題。主な著作に、『中国社会発展報告』（李培林共同編集、社会科学文献出版社、2007年）、『陸学芸文集』（上海辞書出版社、2005年）、『当代中国社会流動』（社会科学文献出版社、2004年）、『当代中国社会階層研究報告』（社会科学文献出版社、2003年）など多数。

関 志雄(かん しゅう)

野村資本市場研究所、シニアフェロー。専門分野は中国経済。香港中文大学経済学科卒業、東京大学大学院経済学研究科博士課程修了、東京大学経済学博士（1996年）。香港上海銀行、野村総合研究所、経済産業研究所を経て現職。政府の諮問委員なども歴任。新聞テレビなどのメディアでも活躍。著作は『中国を動かす経済学者たち』（東洋経済新報社、2007年）、『中国経済のジレンマ』（筑摩書房、2005年）、『中国経済革命最終章』（日本経済新聞社、2005年）、『チャイナ・アズ・ナンバーワン』（東洋経済新報社、2009年）など多数。

俞可平 (Yu Keping)

中共中央編訳局副局長、比較政治と経済研究センター主任。中国における民主化論の代表的人物。彼の「民主とはいいものだ」は大きなセンセーショナルな巻き起こした。

1959年生まれ。北京大学政治学博士。アメリカのデューク大学 (Duke University)、ドイツのベルリン自由大学 (Freie Universität Berlin) などの客員教授を歴任。国家行政学院、北京大学、清華大学、北京師範大学、中国人民大学、復旦大学等の教授を兼任。専門領域は、政治哲学、中国政治、比較政治、グローバリゼーション。主な著作に、Democracy is a Good Thing (Brookings Institution Press, 2009), Globalization and Changes in China's Governance (Brill, 2008), 『中国は民主主義に向かう』（かもがわ出版、2009年）、『全球化（グローバリゼーション）と政治発展』（社会科学文献出版社、2003年）など多数。